

1	A型肝炎	第55回日本ウイルス学会学術集会 2P213	遺伝子型の異なる複数のHAV細胞馴化株における加熱や加圧による不活化効果を検討した。25%アルブミン存在下60°C10時間加熱処理または室温下300～420MPaの1分間加圧3サイクルに対し、HAV細胞馴化株間で不活化効果に差が見られた。Validation試験に使用する株として、加熱や加圧で不活化されにくく細胞で良く増殖するKRM238が適切と考えられた。血液製剤の製造工程に新規不活化法を導入する場合にはValidation試験に使用する株を適切に選定する必要がある。
2	B型肝炎	FDA/CBER 2008年5月 業界向けガイダンス(案)	FDAはB型肝炎コア抗原に対する抗体(抗HBc抗体)が陽性となったために供血延期となった供血者のリエントリー・アルゴリズムを提案するガイダンス案を発表した。これまで、抗HBc抗体が2回以上陽性となった供血者は無期限に供血延期とされていたが、本ガイダンスでは2回目に陽性となった後、8週間以上経ってからHBs抗原、抗HBc抗体および高感度HBV NATによってHBV感染が否定された場合は供血可能となる。
3	B型肝炎	Transfusion 2008; 48: 286-294	最小感染量を求めるために、遺伝子型Aまたは遺伝子型CのHBVを含む急性期前の接種株をチンパンジーに接種したところ、最小50%チンパンジー感染量(GID50)は各々約10コピーと推定された。最低感染量を接種したチンパンジーにおけるHBV DNA ウィンドウ期は遺伝子型Aでは55-76日、遺伝子型Cでは35-50日、HBs Agウィンドウ期は遺伝子型Aでは69-97日、遺伝子型Cでは50-64日であった。またHBV DNAダブリングタイムは遺伝子型Cの方が遺伝子型Aに比べ有意に短かった。
4	B型肝炎	Vox Sanguinis 2008 Epub ahead of print	1999年に核酸増幅検査(NAT)によるHBV DNA検出のための最初のWHO国際標準品(サンプル1)が樹立された。同じ血漿から調整され、長期保存された別のDNA検体(サンプル2)およびサンプル1の力価および安定性を多施設で評価した。両サンプルの力価に有意差はなく、凍結乾燥により保存されたHBV DNAが極めて安定であることが確認された。これを受け、WHOは2006年10月にサンプル2を第2の国際標準品として樹立した。
5	B型肝炎	第37回 日本肝臓学会西部会 2007年12月7-8日、肝臓 2007; 48(Suppl 3): A522	輸血によりHBs抗体エスケープ変異株に感染し、肝炎を発症した40歳代女性の症例報告である。献血者、受血者の塩基配列の解析を行って感染が証明された。核酸増幅検査を含む献血者のスクリーニングを行っているにもかかわらず、本邦では年間10-20例のHBV感染が報告されている。その原因の一つがHBs抗体エスケープ変異株であることが、本症例のように献血者、受血者ともに塩基配列の解析を行い感染が証明された例はきわめて稀である。
6	B型肝炎C型肝炎	第56回日本輸血・細胞治療学会総会 2008年4月25-27日 P-033	2007年に医療機関から日本赤十字社に報告された輸血関連感染症の報告数は124例(10月末現在)であり、一昨年及び昨年の同期間に比べ減少傾向にある。内訳はHBVが61例、HCV32例、細菌24例、その他のウイルスが7例であった。ウイルス感染(疑)症例の調査結果により病原体を確認した症例は、HBVの12例とHCVの1例であった。HCVの1例は20プールNAT開始後(2004年8月開始)初めての検出限界以下の献血血液による感染症例であった。
7	B型肝炎、E型肝炎	Veterinary Science in China 2007; 37: 921-925	中国の畜殺場から集めたブタの肝臓と血清からDNAを抽出し、PCRを使ってs遺伝子を増幅し配列決定を行った結果、ブタとヒトのHBVのS遺伝子の配列は98-100%の相同性を示した。また、RT-PCRによるHEV RNA検出を行った結果、HEV RNAがブタの肝臓に存在することが示された。
8	C型肝炎	HPS Weekly Report 2008; 42(20): 176-187	スコットランドで2007年10～12月に349例のHCV抗体陽性新規症例が診断された。2005年と2006年の同時期の新規症例数は各々377例および365例であった。HCV診断の累積数は23686例であり、その内12%の死亡が確認されている。2007年12月31日現在、スコットランド人口の約250人に1人がHCV抗体陽性と診断された。
9	E型肝炎	Am J Trop Med Hyg 2007; 77: 893-896	スペインの屠殺場の作業員において検出されたE型肝炎感染の初症例を報告する。同定されたウイルスはジェノタイプ3、サブタイプ3fに属していた。患者の血清から分離されたウイルスの部分的配列解析によって、ヨーロッパのヒト株およびブタ株とのヌクレオチド相同性がそれぞれ83.4%-97.3%の範囲であることが明らかとなった。これらの所見は、ブタの感染器官の取り扱いを介して職業病としてE型肝炎ウイルスに感染したことを強く示唆する。
10	E型肝炎	Am J Trop Med Hyg 2008; 78: 1012-1015	スペインでブタに曝露しているヒト101名と曝露していないヒト97名におけるHEV感染の有無を調べた。抗HEV IgG保有率は曝露群では18.8%、非曝露群では4.1%であった。ブタに接するヒトの抗HEV IgG保有リスクは5.4倍(P=0.03)であった。HEV感染は養豚作業員の職業病として扱うべきである。

11	E型肝炎	Gastroenterol Clin Biol 2007; 31: 1095-1097	2006年にフランスの夫婦が南フランスに旅行後に重篤な肝炎を発症し、血清中に抗HEV IgMおよびHEV RNAが検出され、E型肝炎と診断された。2人とも黄疸発症4週間前に生の乾燥ブタ肉を食べていた。この肉から検出されたHEV遺伝子は、患者血清から分離したものと高い相同性を示したことから、このブタ肉が感染源と特定された。火を通していないブタ肉の摂取がHEV感染源となる可能性が示唆された。
12	E型肝炎	Lancet 2007; 370: 935	泌尿器外科医がブタを用いて手術の練習をした後、急性肝炎を発症した。患者の血液よりHEV RNAが検出され、HEV感染と診断された。患者のHEVの遺伝子型は3cであり、ブタにしか見られない遺伝子型であった。ブタの血液から感染したものと思われる。
13	E型肝炎	N Engl J Med 2008; 358: 811-817	2004年1月1日～2006年12月31日に腎移植(241名)または肝移植(86名)を受けた患者の移植時の抗HEV IgG保有率は、各々14.5%または10.4%であった。この内、肝移植を受けた3名、腎移植を受けた9名、腎臓と脾臓の移植を受けた2名の計14名で急性HEV感染を同定したが、全員血清HEV RNA陽性であり、内8名が慢性肝炎となった。移植から診断までの時間は短く、慢性肝炎に進展した患者ではリンパ球数並びにCD2、CD3およびCD4 T細胞数が有意に低かった。
14	E型肝炎	ProMED-mail20080415.1358	香港保健センターは2008年4月14日、E型肝炎感染に対する警告を発し、食物、環境衛生を厳密に観察するよう呼びかけた。最近、E型肝炎感染頻度が増加しているのに対して行われた。
15	E型肝炎	第55回日本ウイルス学会学術集会 2007年10月21-23日	日本国内13のブタ飼育施設におけるHEV保有状況について調査した。各施設につき10箇所の豚房より糞便を採取し、ウイルスゲノムの検出を行ったところ、HEVゲノム陽性率は70%であった。ウイルスは全てIII型およびIV型の遺伝子型に属していた。ひとつのIII型に属するサンプル(swJB-E8)については全長の90%の配列情報が得られ、塩基レベルでのホモロジーはヒトから分離されたものに近いことが明らかとなった。
16	E型肝炎	第56回日本輸血・細胞治療学会総会 2008年4月25-27日 O-026	北海道地区において現行プールNATスクリーニングの残量を用いてTaqMan RT-PCR法によるHEV NATスクリーニングを行った。陽性献血者85例について追跡調査および遡及調査などを行った。陽性献血者の多くは動物内臓肉を食してHEVに感染したと考えられる新規感染者で、GenotypeはG3が多かった。多くは症状が現れないまま抗体が陽転化し、典型的な無症候性一過性感染の経過をたどった。
17	HIV	ABC Newsletter, No.26 2008年7月4日	米国医師会(AMA)は、男性同性愛行為を行った男性(MSM)の供血延期期間を生涯としている連邦の方針を5年間に変更することを支持するという声明を採択した。AMAはこの新方針をFDAに通告し、この方針を推し進めるグループと協力していく。FDAは1977年以降、MSMの供血を生涯延期することを血液事業者に要求しているが、アメリカ血液センターなどからは反対意見が出されている。
18	HIV	AIDS 2007; 21: 2351-2353	フランスの新規HIV診断例におけるHIV-2およびHIV-1グループO型の感染率を調べた。2003年1月から2006年6月に10184例のHIV新規診断症例が報告されたが、HIV-2およびHIV-1グループO型感染の割合は、各々、1.8%および0.1%であった。これらの症例のほとんどは、異性との接触により感染した流行地域出身の患者であった。HIV-2感染のうち3例は男性と性的関係を持つ非アフリカ系男性であった。
19	HIV	Public Health Agency of Canada/CCDR Weekly 2008年3月28日	Manitoba Healthの報告によるとカナダManitobaの女性および先住民族の間でHIV感染率が劇的に増加している。過去10年間で新たにHIVと診断された女性は、以前に比較し4倍となった。ここ7年間の新たな感染症例の3分の1がアボリジニであった。マニトバでは1985年から2007年末までに1477名がHIV陽性で、感染者の80%以上がWinnipegの住民であった。
20	HIV感染、C型肝炎	AFP 2007年9月13日	ペルー保健局は、公立病院で輸血を受けた患者4名が6ヶ月内にHIVに感染したことを受け、国内の240の血液バンクを精査した。44歳女性がHIVに汚染された血液を輸血されたことが報じられた後、当局は、その他に11ヶ月の幼児を含む少なくとも3名がHIVに感染したと発表した。更に、社会安全透析センターに行った患者30名がC型肝炎に感染したことを発表した。HIVおよびC型肝炎問題はペルー保健サービスの汚点である。

21	HIV感染、C型肝炎	日本エイズ学会誌 2007; 9: 541	中国では1985年HIV最初感染例報告以来、2005年末報告数は14万人に上った。感染者数は65万人と推定される。現在、34省級区域全て感染者が存在し、性的経路による新規感染者は49.8%、エイズ死亡率は63.4%である。湖北省HIV感染者報告数は約3500人、54%は血液感染による。HIVは全てB'サブタイプであった。HIV/HCV共感染率は75%で、HCVは78.6%が2a、21.4%が1bであった。
22	インフルエンザ	AABB Weekly Report 2008年2月29日	インフルエンザパンデミックと血液供給に関するAABBの作業部会は、パンデミック時に供血間隔の例外的な取り扱いを認めるよう2月14日にFDAに対し要望書を送付した。パンデミック時には適格な供血者数が制限されることが予想されるため、全血および赤血球採取の間隔を短くすることが最も有効であるとしている。
23	インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2007; 13: 1865-1870	カナダの共同農場で生活していた7ヶ月齢の乳児から、A/Canada/1158/2006と名づけられたブタインフルエンザAウイルス(H3N2)が単離された。この農場のメンバー90名のうち54名で同ウイルスに対する血清学的検査を行ったところ、54名中9名が陽性であった。また、ブタ10頭のうち1頭で血清陽性が明らかになった。ブタインフルエンザウイルス株は効率的にヒトからヒトへ伝染する形に適応または交雑することから、インフルエンザ流行への備えの一環として養豚者の定期的サーベイランスを検討すべきである。
24	インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2007; 13: 1871-1878	2004年に、アイオワ州の田舎の住民803名を対象としてインフルエンザウイルス人畜共通感染に関する2年間の前向き研究を行った。アイオワ大学のブタ非曝露者79名と比較して、ブタ曝露者およびその配偶者は、ブタインフルエンザ(H1N1)ウイルスに対する抗体レベルが増加していた。更に、インフルエンザ様疾患データや組換えH1N1ウイルス分離などから、職業的ブタインフルエンザウイルス感染のエビデンスが示された。
25	インフルエンザ	USDA/News & Events 2007年12月19日	研究者らは、1957年のパンデミック時にヒトに感染したH2インフルエンザウイルス群に属するブタインフルエンザの新しい株H2N3を同定した。この株は分子にねじれがあり、トリインフルエンザとブタインフルエンザ遺伝子の両方のから成る。この発見は、ブタがトリ・ブタ・ヒトによって運ばれるインフルエンザウイルスの“mixing vessel”としての役割を担う可能性があるとの更なる証拠を提供している。
26	インフルエンザ	Vox Sanguinis 2008; 95(Suppl. 1): 40	米国におけるパンデミックインフルエンザの血液供給に対する影響をシミュレーションした。3ヶ月間の血液献血量が50%減少した場合、血液需要に制限がない場合は在庫のほとんどを使い尽くしたが、血液の使用を必要最低限に制限した場合は在庫がなくなることはなかった。
27	鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2008; 14: 308- 310	イヌにおける自然接触の曝露による高病原性トリインフルエンザウイルス(H5N1)の感染性を調べた。H5N1ウイルスを眼-鼻咽喉接種したイヌは2日以内に結膜炎および体温上昇を呈し、鼻咽喉スワブからウイルスRNAが検出された。しかし、接触したイヌやネコには感染しなかった。感染したネコからイヌへの感染も起こらなかった。またH5N1ウイルスに対し、ネコの方がイヌより感受性が高いことが示唆された。
28	鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2008; 14: 600-607	野生のアヒルを実験的にH5N1ウイルスに感染させたところ、キンクロハジロ、ユーラシアホシハジロおよびマガモは、コガモ、ユーラシアヒドリガモおよびオカヨシガモより有意に多くウイルスを排泄することが明らかとなった。キンクロハジロだけでなくホシハジロも発病または死亡した。野生のアヒル種、特にマガモはH5N1ウイルスの長距離宿主である可能性がある。
29	鳥インフルエンザ	Emerg Infect Dis 2008; 14: 741-746	大韓民国におけるトリ起源の新しいイヌインフルエンザウイルス(H3N2)分離株を実験的にイヌに感染させたところ、鼻汁からウイルスが排出され、血清転換し、発症した。また気管、気管支および細気管支上皮細胞で大量のトリインフルエンザウイルス結合受容体(SA α 2,3-gal)が同定され、家禽からイヌへのトリインフルエンザウイルス(H3N2)の直接伝播の可能性が示唆された。
30	鳥インフルエンザ	Medical News Today 2008年4月8日 Lancet 2008; 371: 1427-1434	2007年12月に高病原性トリインフルエンザA(H5N1)ウイルスに感染した2名の家族クラスターが中国Jiangsu省で同定され、調査の結果、息子から父親への限定的なヒト-ヒト感染と考えられるとの記事が2008年4月にLancetに掲載された。両症例から分離されたH5N1ウイルスは1つの非同義のヌクレオチド置換以外は遺伝子的に同一であった。

31	鳥インフルエンザ	Proc Natl Acad Sci USA Published online 2007年12月18日	米国の2つの農場の発病したブタから遺伝学的に相同性であるトリ/ブタウイルスの再集合株のH2N3インフルエンザAウイルスを分離・解析した。これらのウイルスは実験的に感染させたブタおよびマウスで前適合なしで発病させることができた。また、ブタおよびフェレットで感染性があり、高伝播性であった。H2N3ウイルスは哺乳類宿主への適合性を持ったため、その拡大に注意すべきである。
32	鳥インフルエンザ	Proc Natl Acad Sci USA 2008; 105: 7558-7563	ユーラシアおよび北米系統のH7型トリインフルエンザウイルスの受容体結合能およびフェレットモデルにおける感染性を調べた。その結果、2004年にカナダで分離されたH7N3型、2002-2003年に米国北東部で分離されたH7N2型は α 2-6結合シアル酸に対する親和性を高めたHAを保有していた。また2003年にニューヨークの男性から分離された低病原性H7N2型はフェレットの上気道で効率的に増殖し、直接接触で感染できることが確認された。
33	鳥インフルエンザ	ProMED-mail20070903.2894	2006年5月にインドネシアのスマトラ島の女性が家禽からH5N1トリインフルエンザウイルスに感染し、さらに親戚に感染させた。感染した8名の家族のうち7名がまもなく死亡した。米国ワシントン大学の新たな研究により、トリインフルエンザのヒトからヒトへ伝播が初めて確定された。
34	鳥インフルエンザ	ProMED-mail20080104.0038	2007年12月27日、WHOはパキスタンの家族におけるH5N1トリインフルエンザのヒト-ヒト感染を確定したが、感染が拡大する危険性はないと発表した。Peshawarで、感染したニワトリの処分に関わった獣医師とその兄弟3名が肺炎を発症し、処分に関わっていなかったその内の1名が2007年11月23日に死亡し、WHOによりヒト-ヒト感染と確定された。他は全員回復した。
35	鳥インフルエンザ	ProMED-mail20080110.0134	2008年1月10日、中国保健局は、最近、江蘇省で発生した52歳男性の鳥インフルエンザ感染は、患者であった息子との濃厚な接触により感染したものであり、ウイルスの変異は認められていないと確定した。しかし、息子と父親はいずれも死亡した家禽との接触がないため、息子の感染源は明らかになっていない。息子は11月24日に発症し、12月2日に死亡し、父親は12月3日に発症したが回復した。
36	鳥インフルエンザ	ProMED-mail20080218.0656	2008年2月18日に中国保健省はHunan省でヒトでのトリインフルエンザ症例1例を確認したと発表した。症例は22才の男性で、1月16日に発症し、1月24日に死亡した。中国CDCはH5N1陽性であることを確認した。
37	鳥インフルエンザ	ProMED-mail20080221.0710	2008年2月21日、中国保健省は29例目のH5N1トリインフルエンザ症例/19例目の死亡例を確認した。Guangxi Zhuang自治区Nanning Cityにおいて41才男性が2008年2月20日に死亡し、H5N1検査に陽性であった。2月18日にはHunan省でヒトでのトリインフルエンザ死亡症例1例を確認しており、今月2例目のトリインフルエンザ死亡例である。
38	鳥インフルエンザ	ProMED-mail20080225.0758	WHOは中国でヒトにおけるトリインフルエンザの29例目の症例および死亡19例目を確認した。また、2008年2月25日に香港政府は、中国南部Guangdong省の44才の女性がH5N1トリインフルエンザウイルスに感染していることが疑われていると報告した。この症例は同年2月16日に発症したが、診断はまだ確定されていない。中国における30例目のトリインフルエンザ疑い症例である。
39	鳥インフルエンザ	ProMED-mail20080226.0784	中国南部Guangdong省の44才の女性がH5N1トリインフルエンザウイルスに感染し、死亡した。病気の家禽から感染したと思われる。中国で確認された30例目の症例/20例目の死亡例である。
40	鳥インフルエンザ	ProMED-mail20080408.1292	2007年12月にトリインフルエンザにより死亡した24歳の中国人男性は、52歳の父親に直接ウイルスを感染させた(ヒト-ヒト感染)と、2008年4月7日に医師が報告した。中国当局は息子から父親に感染したと考えていると発表していたが、遺伝子配列や他の検査から裏付けられた。

41	鳥インフルエンザ	Public Health Agency of Canada/CCDR Weekly 2008年1月11日	2007年12月10日中国保健局は、トリインフルエンザに罹った息子と父親の間の因果関係を調査中であるが、ウイルスが新種に突然変異したとのエビデンスは見つかっていないと報告した。先週 Jiangsu 省で52歳の父親は、24歳の息子が同疾患で死亡した後、H5N1トリインフルエンザと診断された。新華社通信によると、息子は死んだ家禽と接触しておらず、Jiangsu 省では家禽でのアウトブレイクは報告されていないとのことである。
42	鳥インフルエンザ	Vector-borne Zoonotic Dis 2008; 8: 105-109	2005年10月のタイ中部における高病原性トリインフルエンザのアウトブレイク中に養鶏場で採集された充血した蚊をRT-PCRで調べたところ、H5N1ウイルス陽性であり、H5およびN1断片のシーケンスにより確定された。このウイルスの感染性および複製はC6/36蚊細胞系で確認された。家畜や動物の血で充血した蚊を採集し検査することはH5N1ウイルスの拡大を調査するための有用な方法である。
43	鳥インフルエンザ	WHO 2008年4月3日	パキスタンにおけるトリインフルエンザの状況(update2): 血清学的検査で更に2例のH5N1症例が確定され、パキスタン Peshawar での家族クラスターに関する最終的なH5N1感染検査結果が得られた。これらの検査結果は2007年12月の調査結果から得られた疫学的知見を支持するものであり、限定的なヒト-ヒト感染が発生したが、共同体には拡大しなかったことが示された。
44	ウエストナイルウイルス	J Med Virol 2008; 80: 557-563	中央ヨーロッパにおけるウエストナイルウイルス(WNV)の潜在的脅威を調べた。ドイツ人供血者14437名由来の検体中0.03%が抗WNV陽性であった。ドイツ人9976名由来の検体をWNV NAT法を用いてWNV-RNAの有無を調べた結果、全て陰性であった。米国由来血漿プールではWNV-RNAがしばしば検出されたが、ヨーロッパやアジア由来のプールからは検出されなかった。また、血漿製剤製造過程のウイルス不活化によりWNVに関する安全性は保証されることが明らかとなった。
45	ウエストナイルウイルス	Rev Panam Salud Publica 2006; 19: 112-117	文献および未発表データから、ラテンアメリカやカリブ海地域のウエストナイルウイルス(WNV)感染の現状をまとめた。WNV感染は2001年にCayman諸島とFlorida Keysの住民で見られ、2002~2004年にジャマイカ、メキシコなど周辺地域で動物や鳥類での感染が確認されている。しかし、疾患報告数は少ない。この不可解な熱帯生態系でのウイルス減弱または他の可能性を検討するためには分離株が必要である。
46	日本脳炎	ProMED-mail 20071201.3877	2007年11月30日インド保健省は、今年Uttar Pradeshで約500名が日本脳炎で死亡したと発表した。2007年11月23日までに、州当局は2450例の急性脳炎症候群および499例の死亡を報告した。
47	日本脳炎	第39回日本小児感染症学会総会・学術集会 2007年11月9-11日	日本脳炎ウイルスに関する2006年度感染症流行予測調査では、ヒトで4自治体1197人、ブタで33自治体5349頭を対象に調査を行った。ヒトにおけるNT抗体価1:10以上の抗体保有状況は、1-3歳で10%未満、4歳で約20%、5歳で約80%であった。ブタでHI抗体が1頭以上確認された自治体は27あり、うち抗体保有率50%以上は17、更に12自治体では80%以上であった。2004年度と比較して抗体保有率が急増する年齢が年長側にシフトし、5歳未満に感受性者の蓄積が認められた。
48	BSE	Canadian Food Inspection Agency 2008年2月26日	2008年2月26日、CFIAはAlbertaの6歳の乳牛をBSEと確定した。カナダで12頭目のBSE牛である。どの部位もヒト食料または飼料システムに入っていない。当該牛は2001年12月21日生まれであった。国際ガイドラインに基づいた疫学的調査を実施中である。
49	BSE	Canadian Food Inspection Agency 2008年4月16日	カナダで11頭目のBSE牛に関する調査報告である。2007年12月9日に約3ヶ月半の疾病後、処分されたEast Central Albertaのウシは、予備試験ではBSE陰性であったが、詳しい検査の結果、BSE陽性と確定された。当該牛は1994年3月15日生まれのヘレフォード牛で、死亡時165月齢であった。当該農場で出生し、外に出たことはなかった。出生コホートおよび飼料コホートが実施された。本症例はカナダでは2頭目の非定型BSEであった。
50	BSE	J Food Prot 2008; 71: 802-806	日本における21月齢より若いウシ由来の牛肉でのBSE感染性リスクと死骸成熟度スコアによって評価される米国からの牛肉におけるリスクとを比較した。日本政府は死骸成熟度スコアがA40以下のウシの牛肉の輸入を許可しているが、A40以下のウシは21月齢未満であると推測され、両国でのBSE保有率が同等であるとする、BSE感染性リスクに差は見られなかった。

51	BSE	OIE/World animal health situation 2008 年3月31日	1989年から2008年3月までに、英国以外の世界各国から国際獣疫事務局(OIE)に報告された畜牛におけるBSE症例数である。2006年は、スペイン68頭、アイルランド41頭、ポルトガル33頭、ドイツ16頭、日本およびポーランド10頭、フランス8頭、イタリア7頭、スイスおよびカナダ5頭、チェコ3頭、オーストリア、ベルギーおよびオランダ2頭、スロベニア、スウェーデンおよび米国1頭である。2008年には、これまでにカナダ1頭、アイルランド6頭が報告されている。
52	BSE	OIE/World animal health situation 2008 年4月17日	2008年3月までに、英国から国際獣疫事務局(OIE)に報告されたBSE数である。1987年以前は英国全体で446頭であったが、1992年には37280頭となった。その後、減少し、2007年には67頭となった。2008年は3月31までに10頭報告されている。
53	BSE	ProMED-mail20071218.4076	Canadian Food Inspection Agency (CFIA) は、カナダAlbertaの13才の食肉用雌牛が牛海綿状脳症 (BSE) であることを確定診断した。
54	BSE	ProMED-mail20080229.0831	Canadian Food Inspection Agencyは本日(2008年2月26日)ウェブサイト上で、Albertaの6才の乳牛が12頭目のBSEであることを確認したと発表した。このウシは狂牛病拡大防止のための飼料成分禁止措置が取られた約5年後に生まれた。
55	クロイツフェルト・ヤコブ病	Neuropathology 2008; 28: 51-61	硬膜移植に関連した日本人CJD患者の剖検症例5例について臨床病理学的分析を行った。硬膜を小脳テント下に移植された4例における発症時の症状は小脳または脳幹機能障害であり、小脳テント上に移植された1例では大脳皮質症状を示した。亜急性海綿状脳症が1例、全脳型CJDが4例であった。また、シナプス型PrP沈着を示した。初期症状と移植部位に密接な関係があることから、移植部位から近接する脳部位へのCJD直接感染が示唆された。
56	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Ann Neurol 2008; 63: 697-708	米国の国立プリオン病病因調査センターに2002年5月から2006年1月に紹介された患者11名(平均発症年齢62歳)を調べたところ、海綿状変性の型、PrP免疫染色パターンおよびマイクロブラークの存在が、既知のプリオン病とは異なり、通常の方法では典型的なプロテアーゼ感受性PrPは検出されなかった。我々はこれらをプロテアーゼ感受性プリオン病(PSPr)と名付けた。PSPrは、プリオン病の中では稀ではなく、我々のデータが示すよりもさらに多い可能性がある。
57	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Biochem Biophys Res Commun 2007; 364: 796-800	正常な脳ホモジネートを慢性消耗性疾患エルクノ異常プリオンとともにインキュベートするin vitro アッセイを用いて、プリオンの転換について調べた。標準の条件下(pH 7.4)ではPrPCからPrPScへの転換は同種でのみ効率的であったが、酸性条件下(pH3.5)では異種においても転換が著しく促進された。基質の部分変性によって構造上の変化が起こり、遠隔種間の種の壁を越えることが示唆された。
58	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Channel 4 News/Press Association report 2008年1月2日	今までに確認されたことのないタイプのvCJDにより、ヒトでの狂牛病による死亡に対する新たなおそれが浮上している。vCJDで死亡した39歳女性の脳は通常とは異なる損傷パターンを示し、今までの患者とは遺伝的に異なっていた。1980年代に感染牛を食べたことによるvCJD患者に新たなグループが存在する可能性を示唆している。
59	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	dailypress.com 2008 年4月11日	米国Portsmouthで、脳変性疾患を呈し死亡した女性の死因を、vCJD疑いのため調査中である。MRIまたは脳スキャンの結果がアトランタの疾病対策センターに送付され、バージニア大学および国立プリオン病病因サーベイランスセンターで更に検査される。結果が出るまでには数ヶ月を要すると思われる。
60	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	HPA/Health Protection Report 2(19) 2008年5月9日	2000年1月1日~2007年12月31日に、手術を介したCJDへの潜在的な医原性暴露は計329件報告された。2007年7月1日から12月31日の間に11件が追加された。NATA(National Anonymous Tonsil Archive)は2008年8月末までに計61619例の扁桃腺組織検体を受け取った。2007年1月末から扁桃腺組織中の異常プリオン蛋白の有無に関するスクリーニングが行われている。

61	異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	J Virol 2008; 82: 3697-3701	非典型的BSE株の1つであるBASE(またはBSE-L)の感染性およびヒトでの表現型を調べた。BASE ウシ由来の脳ホモジネートを、ヒトプリオン蛋白を発現するトランスジェニック(Tg)マウスに接種した ところ、60%が20-22ヶ月後に感染し、古典的BSEに関する報告より高い感染率であった。BASE感 染ヒト化Tgマウス脳における病因性プリオンのアイソフォームは、元のウシBASEまたは孤発性ヒト プリオン病のものとは異なっていた。またBASEプリオンはリンパ向性であった。
62	異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Medgadget.com 2008 年4月9日	カナダQuebecのProMetic Life Science社は血液中のvCJDプリオンを除去する使い捨てフィル ターを開発した。何百万ものペプチドをスクリーニングし、プリオンに最も親和性のあるものを探 し、市販の樹脂に固定し、膜状にし、何層にも重ねた。本フィルターは汚染血液からのプリオン除 去が可能であった。また、フィルターで処理したプリオン感染ハムスターの血液をプリオン非感染 ハムスターに投与しても疾患は発現しなかった。
63	異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Microbiol Immunol 2007; 51: 1221-1231	感染動物モデルにおいても、血中のPrPresは白血球を除きめったに検出されない。新規の酸性 SDS沈殿法と高感度化学発光法とを組み合わせることにより、プロテイナーゼK耐性3F4反応性タ ンパクが、スクレイピー感染ハムスターの血漿中からは検出されるが、疑似感染ハムスターでは 検出されることが示された。血漿中においてPrPresは他の血漿タンパクと糖鎖を通じて凝集して おり、スクレイピー感染ハムスター血漿において検出可能となったことが示唆された。
64	異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	PDA Journal of GMP and Validation in Japan 2007; 9: 32-41	生物製剤におけるプリオン対策の現状と課題に関する総論である。牛由来材料または人血漿材 料を用いて生物製剤を製造する場合、プリオンによる製造原料の潜在的汚染の可能性が存在し ている。安全対策がより効率的・効果的であるために、さらに発症メカニズムの解析、高感度検出 法の開発、除去・評価法の開発が必要である。
65	異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Pediatr Transplant 2008; 12: 95-98	米国で、小腸のBurkittリンパ腫で化学療法を受けた後、同種臍帯血移植を受けた6歳の男児が移 植5ヶ月後に致死性の高進行性脳症を発症した。剖検により脳内の海綿状変化が明らかとなり、 多くの臨床経過所見がTSEと一致していた。生前および死後の検査では病因を特定できなかった。 化学療法や抗ウイルス療法による後天性ミトコンドリア病である可能性は除外できなかった。 同種造血幹細胞移植後の海綿状脳症の初めての報告である。
66	異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	ProMED- mail20080303.0878	英国で53歳の男性実業家がvCJDで死亡した。この男性は2001年に角膜移植手術を受け、6年後 の2007年8月に記憶と平衡感覚に支障をきたし始め、2007年11月13日にvCJDと診断され、診断 後10週で死亡した。家族は眼の手術が原因と確信している。
67	異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	ProMED- mail20080410.1311	2008年4月7日、スペイン当局は、2005年に初めての死亡例が出て以来のヒト型狂牛病による死亡 が発生したと発表した。犠牲者は40歳と51歳で、2007年12月と2008年2月に死亡した。Castile- Leon地方の農家は、今回の犠牲者は明らかに2001年以前に感染しており、それ以後、家畜およ び食肉生産に対する衛生管理は強化されていると述べた。
68	異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	ProMED- mail20080707.2058	英国National CJD Surveillance Unitによると2008年7月4日現在の英国における 確定および疑い vCJD症例数は計167例で、内3例は生存中である。フランスInstitut de Veille Sanitaireの2008年7 月7日付け月間集計によると同国で1992-2008年に記録されたvCJD確定および疑い症例数は23 例で全て死亡している。
69	異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Transfusion 2008; 48: 609-619	ヒツジのリコンビナントPrP(rPrP)のヒツジにおける血液クリアランスならびにスクレイピー関連フィ ブリル(SAF)静注後のPrPresへの曝露について調べた。rPrPのARR変異型は、VRQ変異型よりも より早く除去された。また、PrPcのARR変異型のクリアランスがVRQ変異型のクリアランスよりも大 きいことが示唆された。rPrPの血漿クリアランスは、両腎臓摘出後は52%減少し、rPrP除去に腎臓 が重要であることが示された。PrPresはSAF静注後は緩やかに除去された。
70	異型クロイツ フェルト・ヤコ ブ病	Vet Res 2008; 39: 33	1990年代にウシ海綿状脳症が英国で流行したことを受けて、ヒト及び動物において伝染性海綿状 脳症を検出するために開発された様々な技法についての総説である。vCJDが輸血により感染しう ることが明らかなことから、vCJDの診断に関する血液検査の開発が最優先事項である。

71	異型クロイツフェルト・ヤコブ病	Vet Res 2008; 39: 34	伝染性海綿状脳症(TSE)の伝播性を調べるための実験的アプローチ法を要約し、実験における所見と自然発生するTSE(主にウシ海綿状脳症及びスクレイピー)およびコントロール方法との関連性を考察している。
72	エボラ出血	Science and Development Network/Sub-Saharan Africa/News 2007年10月19日	科学者らは、コンゴGabonの野生のサルから分離したエボラウイルスは新規の系統に属し、他の株と融合し、新種の株を創生することが可能であることを発見した。このことはワクチン開発に重大な意味を持つ。弱毒化されたウイルスからなるワクチンは、野生ウイルスと融合し、新種を作り、予測や制御がより困難なウイルスがヒトやサルに広がる可能性がある。これらの知見はProc Natl Acad Sciの10月17日onlineに発表された。
73	エボラ出血	WHO/EPR 2007年11月30日	ウガンダ保健省はウガンダ西部のBundibugyo地方におけるエボラ出血熱のアウトブレイクを確定した。アウトブレイクは2007年9月に始まっていた可能性があり、2007年11月28日現在、死亡例16名を含む51名の疑い例が報告されている。患者の検体から新規のウイルス株が確認された。
74	コンゴ・クリミア出血熱	ProMED-mail20080518.1657	2008年5月13日までにロシア南連邦地方においてクリミア・コンゴ出血熱18例(死亡2例を含む)が記録された。同地方全域でダニ駆除薬による家畜の処置が行われたが、Astrakhan地域では不十分である。同地方でのクリミア・コンゴ出血熱症例数は2007年には234例で、うち4例が死亡例であった。
75	コンゴ・クリミア出血熱	ProMED-mail20080528.1732	ロシアStavropol Kraiではクリミア・コンゴ出血熱による2例目の死亡例(39歳女性)が記録された。1例目の男性は2008年5月中旬に死亡している。2008年5月26日現在、12地域で患者17例が記録されている。インターネットの情報によるとSouth Federal Okrugにおいて2008年のこれまでにクリミア・コンゴ出血熱による死亡が4例記録されている。これは2007年1年間の総数に当たる。
76	コンゴ・クリミア出血熱	ProMED-mail20080709.2092	2008年7月7日、トルコのBursa、CanakkaleおよびSamsunの病院でダニ媒介性疾患であるクリミア・コンゴ出血熱により3名が死亡し、この2ヶ月での死者数は37名となった。保健省はダニに注意するよう呼びかけ、咬まれた場合は決して手でつぶさず、医師にピンセットで注意深く取り除いてもらい、ヨードで消毒することを推奨している。
77	サルモネラ	CDC 2008年7月8日	CDCは関係機関と協力して複数の州で発生したサルモネラ血清型セントポールのアウトブレイクを調査している。生のトマトの摂食が原因と考えられている。2008年4月以降2008年7月7日までに、米国の41の州、ワシントンD.Cおよびカナダで991名の患者が同じ遺伝子パターンのサルモネラ血清型セントポールに感染したことが確認された。
78	サルモネラ	HPA/Health Protection Report 2(11) 2008年3月14日	2008年2月22日以降、HPAの腸管病原菌研究所(LEP)が受け取る、まだ命名されていない同じファージ型パターンを示すネズミチフス菌の分離株数が増加している。パターンは現在認識されているネズミチフス菌のファージ型とは異なり、PT U320と命名された。LEPはイングランドとウェールズ在住者においてネズミチフス菌PT U320感染のヒト症例51例を確定した。分離株は全て抗生物質に対し十分に感受性があった。患者は10ヶ月から92歳で、31例中30例は2月17日から25日に発症した。
79	大腸菌性胃腸炎	日本公衆衛生雑誌 第66回日本公衆衛生学会総会 2007年10月24-26日	動物における腸管出血性大腸菌の保有状況を調査した。平成18年6月から19年2月に愛媛県内の屠殺場に搬入されたウシ143頭、動物愛護センターに収容されたイヌ71頭、ネコ67頭の直腸便を検査した結果、ウシでは82頭(57.3%)からヒト腸管出血性大腸菌(EHEC)が137株分離され、O157やO26など9種類の血清型が含まれていた。イヌとネコからはEHECは検出されなかった。
80	チクングニヤウイルス感染	CDC/Outbreak Notice 2008年2月11日	2008年2月5日現在、シンガポール保健省は同国の地方におけるチクングニヤ熱の可能性症例13例を報告した。狭い地域での症例で、最近の旅行歴のある患者がいらないことから、国内の蚊によるチクングニヤウイルスの局所的伝播であることが示唆される。同国への旅行者はチクングニヤ熱の症状に注意し、蚊に刺されないよう注意すべきである。

81	チクングニヤウイルス感染	PLoS Med 2008; 5:e60	2005年3月-2006年12月にレユニオン島では7504名の女性が7629例の新生児を出産したが、妊産婦中678名(9.0%)が分娩前に、61名(0.8%)が分娩前または分娩中にチクングニヤウイルスに感染していた。早期の胎児死亡3例を除き、垂直感染はほぼ満期出産の分娩時ウイルス血症で観察され、分娩時ウイルス血症産婦39名からの垂直感染は19例(48.7%)であった。帝王切開では感染を防げなかった。感染した新生児は出生後3-7日目に発病し、10例(52.6%)で重症となり、うち9例(90%)が脳症であった
82	チクングニヤウイルス感染	ProMED-mail20080104.0051	インドネシアBandarlampungでは2007年12月に数千人がチクングニヤに感染した。最悪感染地域のWaydadi地区では3自治会で500名近くの住民が感染した。感染は2007年11月に始まり、Bandarlampungの多くの地区に広がった。
83	チクングニヤウイルス感染	ProMED-mail20080109.0106	台湾CDCは2007年12月28日および30日にチクングニヤの輸入症例2例を検査により特定した。この2例はいずれもインドネシア人で各々、12月20日および27日に発症した。
84	チクングニヤウイルス感染	ProMED-mail20080428.1470	台湾Taoyuan郡保健省は2008年4月23日、北部で今年初めてのチクングニヤ熱症例を確認した。患者は58歳の台湾人ビジネスマンで、2008年の3月26日から4月9日に上海、4月9日から19日にジャカルタに旅行した。
85	手足口病	WHO 2008年5月1日	中国におけるエンテロウイルス:2008年4月29日現在、中国で乳幼児におけるエンテロウイルス(EV-71)による手足口病が死亡20例を含む1884症例報告されている。死亡20例はAnhui省Fuyang市である。死亡例は全てEV-71感染による神経原性肺水腫のような重症の合併症により死亡した。全症例の死亡率は3月10-31日は11%であったが、4月17-29日には0.2%に減少した。
86	デング熱	CDC/Travelers' Health 2008年7月24日	ブラジルでは2007年に続き、2008年もデング熱の大きなアウトブレイクが報告されている。保健当局によると、2008年3月28日現在、デング熱総症例数は120570例で、その内、デング出血熱647例、死亡48例である。リオデジャネイロでは2008年4月10日現在、デング熱総症例数は75399例で、その内、死亡80例である。ブラジルへの旅行者は蚊に刺されないよう十分注意すべきである。
87	デング熱	ProMED-mail20070924.3165	タイ保健省によれば、2007年1月1日~9月8日におけるデング熱感染症例は41975例であり、うち47例が死亡した。インドネシアでは16万例を超えており、ビルマ(ミャンマー)では計11577例、カンボジアでは25000例(15才未満の小児300例が死亡)が感染した。マレーシアでは感染が50%急増し、2007年6月に56例が死亡、7月は毎週1000例以上の患者が入院した。ベトナムでは2006年より40%増加し、33000例が感染し、32例が死亡した。
88	デング熱	ProMED-mail20071030.3516	ベトナム保健省は洪水多発地域で新たなデング熱アウトブレイクの危険性が高いため、州や市へデング熱防御および抑制のための厳格な手段をとるよう命令した。同国では今年(2007年)、デング熱症例が80000例近く発生しており、うち68例が死亡した。パキスタンKarachiではデング熱症例は2007年8月以降上昇し、1527例となったと地方保健局が2007年10月23日に発表した。別の地域で新たに48例が報告された。
89	デング熱	ProMED-mail20071227.4147	インドネシアCentral Java保健サービスは、2007年1月から12月までにデング熱に住民11636名が感染し、うち217名が死亡したと発表した。2007年1-11月の同市での発生率は4.95/10000人で、2006年の3.37/10000人より高かった。
90	デング熱	ProMED-mail20080120.0255	カンボジアでは2007年にデング熱により407名が死亡し、最近10年間で最高の死亡者数となったと保健省は2008年1月4日に発表した。死亡例の大部分は小児であった。デング熱は同国における慢性的な問題であるが、2007年は雨季の到来が例年より早かったことも原因であるとしている。

91	デング熱	ProMED-mail20080211.0549	ブラジルにおいて2007年のデング熱による死亡症例数は158例で、2006年の78例の2倍以上であった。2008年1月になり減少している。2008年2月4日に発行された保健省の冊子によると、2007年に全国で559954例のデング症例が登録され、このうち1541例がデング熱であった。Parana州南部地域では2007年12月のデング熱届出症例数は8356例となり、2006年同時期と比較して827%増加した。
92	デング熱	ProMED-mail20080218.0662	タイでは2008年になってから今までに4名がデング熱で死亡し、累積患者数は1ヶ月で2824名となった。患者の70%は中部地方の住民である。2007年の同時期の患者数は1702名で、死亡例はない。2007年のデング熱患者数は約60000名で、死亡数は29名である。
93	デング熱	ProMED-mail20080309.0962	トンガVaiola病院からの報告によると、2008年3月2日までにデング熱により2名が死亡した。23歳の警察官1名と、幼児1名が、デング熱の重症合併症により死亡した。2007年6月から12月にかけて、デング感染流行が発生し、当時死亡した患者は1名であった。このほか、50-60名の患者が治療を受けた。しかし、2008年、デング熱感染患者は3倍に増加し、200名以上が治療を受けている。
94	デング熱	ProMED-mail20080321.1080	メキシコでは最近4年間で古典的デング熱およびデング出血熱症例が2003年の6400例から2007年の48000例となり、750%増加した。感染の80%は南東部、主にVeracruzおよびChiapasに集中している。2007年には国内の28州において10例の死亡を含むアウトブレイクが記録された。
95	デング熱	ProMED-mail20080401.1198	2008年3月26日現在、フィリピンIlocos Norteで2008年に記録されたデング熱感染者数は90名で、うち2名は死亡例である。ニューカレドニアにおけるデング熱症例数は2008年2月の流行発生以降、増加を続け、3月初旬は72症例であったが、3月20日には215例以上に急増し、3月28日には263例以上となった。ブラジル保健当局は2008年1月1日以降、国内におけるデング出血熱406例（死亡34例を含む）を報告した。2007年同時期と比べ著しく増加している。
96	デング熱	ProMED-mail20080421.1411	1ヶ月近くの豪雨のため、ブラジル北東部におけるデング熱届出数は2007年同時期より48%多く、デング熱確定死亡例は23例で、デング熱疑い死亡例は56例である。Sergipe州は最もデング熱が増加した州であり、2008年1-4月のデング熱症例は2007年同時期より1226%増加した。またRio Grande do Norte州では2008年のデング出血熱症例の届出は577例で2007年同時期と比較して約10倍に増加した。
97	デング熱	ProMED-mail20080525.1716	ホーチミン市保健当局は2008年5月20日に、同市では3000名以上の小児がデング熱に罹患し、昨年の2倍であると報告した。第一小児病院デング熱科の入院患者数は、先週1日20-30名であったが、現在は40-60名に増加した。メコンデルタ地方では2008年になってから今までに10000例以上がデング熱に罹患した。
98	デング熱	ProMED-mail20080603.1776	2008年5月28日、ブラジルRio de Janeiroでは、今年になってから162701例のデング熱症例が報告され、その内、死亡例は123例で、更に116例のデング熱疑い死亡例を調査中であると保健局が発表した。また、保健局発表によると、2008年5月21日現在、ブラジルSergipeでは20174例が報告され、8726例が確定された。2008年4月は10万人当たり652.4例の発生率であったが、5月には10万人当たり118.2例に減少した。
99	デング熱	ProMED-mail20080618.1901	マニラCaloocan市保健当局は2008年1月1日から5月29日にデング熱症例630例、うち5例は死亡例を記録したと発表した。これは2007年同時期と比較して2倍の増加である。
100	デング熱	ProMED-mail20080622.1933	ベトナム南部の複数の省においてデング熱症例約5000例が発生し、Tien Giang、Ca Mau、Bac Lieuなどの省で増加が予想されている。Ca Mau省の予防衛生センターによると、2008年6月18日までのデング熱の発生は2007年同時期と比較して2倍となる1000例以上となった。流行はまだ増加傾向にある。

101	デング熱	Transfusion 2008; 48: 1342-1347	高力価の培養デングウイルス セロタイプ2をアルブミンおよび免疫グロブリンの各種製造工程(低温エタノール分画、陽イオン交換クロマトグラフィー、低温殺菌、S/D処理およびウイルスろ過)前の検体に加え、各工程での同ウイルスのクリアランスをVero E6細胞培養におけるTCID50アッセイおよびRT-PCRで測定した。その結果、全ての工程が不活化・除去に有効であることが示された。
102	アメリカ・トリパノソーマ症	Clin Infect Dis 2008; 46: e44-47	血液製剤の輸血によりシャーガス病に感染し、死亡したスペイン人患者の寄生虫学的、血清学的疾患経過、ならびに供血者の調査の報告である。患者は白血病の既往があり、176名以上の供血者由来の輸血を受けていた。臍帯血移植のための免疫抑制状態で、寄生虫が血液脳関門を通過して神経系に感染したことが確認された。特定された供血者は無症候であった。複数回輸血患者は、免疫抑制剤治療実施前に、抗Trypanosoma cruzi抗体のスクリーニングを受けるべきである。
103	アメリカ・トリパノソーマ症	Vox Sanguinis 2008; 95(Suppl.1): 39	米国で全供血者を対象にしたTripanosoma Cruzi検査が導入された2007年1月30日以降、最初の10ヶ月間、供血者の調査を行った。適合供血のうちELISA法で反復陽性(RR)となったのは0.013%(90/651471)で、そのうちRIPA陽性は34%(28/82)で、陽性確認率は0.0043%であった。全供血のスクリーニングは費用対効果が低く、出生地と初回供血者に絞った対策の検討が示唆された。
104	アメリカ・トリパノソーマ症	第48回 日本熱帯医学会大会 2007年10月12-13日 12C-02	日本におけるラテンアメリカ人の慢性シャーガス病キャリアーからの献血についての対策を検討した。カーミC液(CPD液)を用いてT.Cruzi感染マウス血液を4°Cにて1-21日間保存処理を行ったところ、マウスへの感染性は無処理のものと差異は無かったが、病原性はかなり減弱することが示された。しかし、T.Cruzi虫体はほとんどの白血球除去フィルターを通過した。現在の保存血液提供システムはシャーガス病の輸血感染防止には不十分であり、対策の改善が必要である。
105	バベシア症	American Society for Microbiology 108th General Meeting 2008年6月1-5日、Boston	米国中南部では稀な輸血によると考えられるBabesia microti感染症例の報告である。61歳の女性患者で、赤血球輸血後、吐き気と発熱を訴え、敗血症の症状を呈し、死亡した。血液塗抹標本で赤血球の5~15%にトロフォゾイト(栄養体)があった。患者血液検体中でBabesiaは形態学的に確認され、PCRでB. microti陽性であった。輸血された製剤の供血者のうち1名がB. microti陽性であった。
106	バベシア症	Blood 2007; 110: 853	米国コネチカット州での輸血によるBabesia microti感染の危険性を評価するため、2004-2007年に収集されたドナーとレシipientの保存検体を検査した。その結果、45回の赤血球輸血を受けていた患者1例でBabesia microti感染が確認されたが、血清検体陽性のドナーを特定することはできなかった。危険性は1920回の赤血球輸血で0例または1例と計算された。
107	パルボウイルス	FDA/CBER 2008年7月 業界向けガイダンス(案)	血漿由来製品によるパルボウイルスB19伝播リスクを低減するための核酸増幅検査(NAT)についてのガイダンス案が示された。全ての血漿由来製剤について、製造プール中のパルボウイルスB19 DNAのウイルス負荷を確実に10000 IU/ml未満とするため、製造過程の品質管理検査としてNATを実施すべきである。ミニプール中でのNATの感度は少なくとも1000000 IU/mlとすべきである。これらの基準を超えるものは使用してはならない。
108	パルボウイルス	Transfusion 2007; 47: 1775-1782	ドイツ及びオーストリアで2003-2006年の計280万の供血検体をパルボウイルスB19(B19V)についてミニプールNATによりスクリーニングした。その結果、10万 IU/ml以上は10万供血当たり12.7、10万 IU/ml未満は10万供血当たり261.5であった。10万 IU/ml未満のB19Vを含有する検体では全てに中和抗体(VP2)が検出された。10万 IU/ml未満のB19 DNA陽性血液製剤は高濃度の中和抗体を含有するため安全であると思われる。
109	パルボウイルス	Transfusion 2008; 48: 1036-1037	大阪における1997-1999年の献血者979052名中102名がヒトパルボウイルスB19感染者であった。B19感染者のうち20名のB19 DNA、IgGおよびIgMを長期間フォローアップしたところ、B19持続感染が観察されたが、B19感染の症状を報告した者はいなかった。B19急性感染後の血漿ウイルス力価は約1年で10 ⁴ IU/mL未満、約2年で10 ³ IU/mL未満まで下がることが示された。
110	パルボウイルス	Transfusion 2008; 48: 178-186	B19V IgG力価に関係したB19V中和の役割を検討するため、製造血漿プール1000以上について酵素免疫測定法による検査を実施した。血漿プールは平均33±9 IU/mL(最小値11 IU/mL)のB19V IgG力価を含有し、これらの11 IU/mLのB19V IgGは、B19V遺伝子型1の感染性を4.6 log、遺伝子型2の感染性を3.9 log以上を中和した。このため、このようなプール由来の10%静注用免疫グロブリン製剤(IVIg)は、さらに高いB19V中和活性を含有することが明らかとなった。

111	パルボウイルス	Transfusion in press	3つの血液凝固因子製剤(第VIII因子インヒビター-バイパス活性、第IX因子複合体および第VII因子)の製造工程においてSTIM-4蒸気加熱処理装置を用いた不活性化処理を行い、ヒトパルボウイルスB19(B19V)とマウス微小ウイルス(MMV)間で不活性化効果の比較を行った。その結果、血液凝固因子製剤の中間体の種類に関わらず、試験に用いたB19V(遺伝子型1型、2型)はいずれもMMVと比較して効果的に不活性化された。
112	パルボウイルス	Vox Sanguinis 2007; 93: 208-215	2005年3月から2007年3月の間にオランダで約260万の血漿成分検体を対象として2種類のPCRアッセイを用いたパルボウイルスB19(B19V)のスクリーニング試験を実施した。その結果、232検体がB19V DNA値100万IU/ml以上であった。ヨーロッパ人ドナーにおいてはB19V遺伝子2型及び3型の保有率は極めて低いと考えられた。
113	パルボウイルス	Vox Sanguinis 2007; 93: 216-222	ヒト血漿中のパルボウイルスB19(B19V)抗原を検出するEIAを開発した。本アッセイを用いて無症候性ドナーから採取したウイルス血症性の献血検体を検査したところ、低pHの状態ではB19V検出が大幅に増加した。また、B19抗原の検出はB19 IgMまたはIgG抗体存在下で影響を受けなかった。B19V IgMアッセイと併用することにより、急性B19感染の91%を検出した。B19V IgM検出法とB19V抗原EIAの併用はPCRに替わるB19V感染の有効な検出法となるとと思われる。
114	パルボウイルス	Vox Sanguinis 2007; 93: 341-347	過去30~35年間に製造された第VIII因子製剤中にヒトパルボウイルスが存在するかを調べた。175ロットのうち28ロットがPARV4シークエンスを含み、その内2ロットにジェノタイプ1型及び2型の両方が存在した。最大ウイルス量は $10^{5.5}$ copies/mL以上であった。PARV4陽性の第VIII因子製剤の大部分は1970年代及び1980年代に製造されていた。B19Vは175ロット中70ロットで陽性であった。
115	パルボウイルス	Vox Sanguinis 2008; 94: 74-80	パルボウイルスB19(B19V)の新規の遺伝子型が発見されていることから、種々の遺伝子型のB19V検出及び定量結果を統一する方法を見いだす目的で国際ワーキンググループ会議が2007年3月に開催された。その会議の要旨である。会議では、B19V株の分類、種々の遺伝子型の有病率、分布、臨床的意義などが検討された。また、特性が十分に明らかになっている標準物質を用いたアッセイの標準化について合意が得られた。
116	ハンタウイルス	Emerg Infect Dis 2008; 14: 808-810	スウェーデンにおけるPuumalaウイルスの予期せぬ大規模アウトブレイクにより、2007年のVästernorrland地方の流行性腎症患者の数は100,000人当り313人に至った。齧歯類の増加の他、気候温暖化および地表を覆う積雪の減少により、ウイルスを媒介するハタネズミの活動が活発だったことが、当該アウトブレイクの一因であろうと考えられる。
117	ハンタウイルス	J Clin Microbiol 2007; 45: 3008-3014	ヨーロッパでの出血熱は主にPuumalaウイルス(PUUV)またはDobravaウイルス感染による。ドイツ南東部Lower Bavariaでハンタウイルス感染患者31名について、酵素免疫測定法、免疫蛍光法、免疫ブロット法による診断を行った。標準的検査による抗体のPUUV特異的タイピングができない症例が2、3あった。3名の患者の急性期血清から得たPUUV RNAをRT-PCRを用いて増幅したところ、同地域で捕獲したハタネズミ から得たウイルス配列と非常に近縁であることが明らかとなった。
118	ハンタウイルス	ProMED-mail20080119.0249	台湾保健局は2008年1月11日、今年初めてのハンタウイルス出血熱症例を発表した。台湾の46歳のビジネスマンで、中国の内モンゴルへ頻りに旅行しており、先月内モンゴルで震にかかったラットを処分するときにラットに接触していた。
119	ヒトポリオマウイルス感染	Science 2008; 319: 1096-1100	メルケル細胞癌(MCC)検体をdigital transcriptome subtraction法を用いて検査し、新種のポリオマウイルスを同定し、メルケル細胞ポリオマウイルス(MCVまたはMCPyV)と命名した。このウイルスはMCC腫瘍10検体中8例(80%)で検出されたが、対照組織検体では59例中5例(8%)、対照皮膚組織検体では25例中4例(16%)でしか検出されなかった。MCVがMCCの病原因子である可能性が示唆された。
120	ブドウ球菌感染	Emerg Infect Dis 2007; 13: 1834-1839	2003年オランダで、Sma1パルスフィールドゲル電気泳動でタイピング不可能な新規のメチシリン耐性黄色ブドウ球菌(NT-MRSA)が出現した。ケースコントロール試験の結果、NT-MRSAのキャリアはブタまたはウシ飼育農家に多かった。またNT-MRSAは新規のクローン複合体ST398に属していた。2002年にはヒトにおけるNT-MRSAは0%であったが、2006年には同国の全MRSAの20%以上がNT-MRSAによるものであった。動物宿主由来のMRSAがヒトに感染したものと考えられる。

121	ブドウ球菌感染	HPA/Health Protection Report 2(25) 2008年6月20日	最近、英国HPSは2007年にヒトにおいて発生したいわゆるコミュニティMRSAのブタ株であるST398株感染症例3例を報告した。これらは英国における初めての症例であるが、全員治療に成功した。ここ数年、ヨーロッパ大陸の家畜のブタにおいて無症候性のST398株の定着の増加が認識されている。ブタ関連MRSA(ST398)のヒト症例を更に同定するため、HPAは臨床検査による監視の継続の必要性を改めて表明する。
122	ブドウ球菌感染	HPS Weekly Report 2008; 42(23): 203	MRSA分離株であるST398株は、ヒトに伝播し、感染を引き起こす可能性のあるブタ関連株であることが示唆されている。英国では今まで動物またはヒトからのST398株分離の報告はなかった。2007年にScottish MRSA Reference Laboratoryはヒトから分離され、MLSTによって同定された3例のST398株を受け取った。これらの分離株は最も普遍的なST398株と同一ではなかった。疫学的調査の結果、3例は同時期に入院しておらず、ブタや養豚業者との関連はなかったことが確認された。
123	ブルセラ症	Clin Infect Dis 2008; 46: e131-136	急性ブルセラ症患者39名の血液検体中のBrucella DNAの存在をRT-PCR法により調べた。その結果、治療終了時では87%、治療完了後6ヶ月では77%、治療後2年を過ぎても70%の患者で、無症候性であるにもかかわらず、Brucella DNAが検出された。適切な治療を行い、回復したように見えても、Brucella DNAは存続する。ブルセラ菌は除去不可能な持続性の病原体である。
124	ブルセラ症	ProMED-mail20071206.3936	中国保健省は2007年12月3日に、中国でのヒトにおけるブルセラ症の増加は継続しており、Heilongjiangにおける症例数が特に多いと述べた。保健省の統計によると中国のヒトにおけるブルセラ症の防止および管理は重大な状況にあり、ウシおよびヒツジ生産地域における発生は重大な懸念である。
125	ブルセラ症	ProMED-mail20080202.0427	米国農務省は2008年2月1日にTexas州はウシのブルセラ症フリー資格を獲得したと発表した。同州のウシ生産者は50年近く、ブルセラ症と闘ってきた。
126	ペスト	Emerg Infect Dis 2007; 13: 1459-1462	2003年6月から7月にアルジェリアOran地区においてペストの集団感染が発生した。同国では、この疾患は50年以上報告されていなかった。腺ペスト症例18名が特定され、Yersinia pestisが6名から分離された。初発患者を除き、全員が回復した。標的予防的化学療法、衛生、ベクターコントロールが、感染制御上重要な役割を果たした。疫学的、分子生物学的な知見から、当該期間中、現地の保菌動物の存在が強く示唆されたが、その起源については特定できなかった。
127	ペスト	ProMED-mail20071212.3998	中国保健省は2007年12月10日、2007年11月にGansu省が2例目のペスト症例を報告したと発表した。患者は死亡した。Gansu省では2007年9月に中国で初めてのペスト症例が報告された。
128	マラリア	Clin Infect Dis 2008; 46: 165-171	マレーシア住民におけるPlasmodium knowlesiマラリアの分布を調査し、P. knowlesi疑い死亡例4例について調べた。その結果、P. knowlesiによるヒト感染はマレーシアボルネオからマレーシア半島まで広く分布することが明らかとなった。4例の死亡例からはP. knowlesi DNAだけが検出された。P. knowlesiは、より軽症の四日熱マラリアと誤診断されることが多いので注意を要する。
129	マラリア	ProMED-mail20071026.3487	タイにおける約10年ぶりのマラリアの再興は公衆衛生上の大きな脅威であることが最近の調査で明らかとなった。タイ健康増進基金による最新情報によるとマラリアとコレラは南部および北東部における重大な問題になりつつある。マラリアの発生は特に最南端の国境に接する州で重大で、今年(2007年)になってから今までに3000人以上が感染した。
130	マラリア	ProMED-mail20080408.1287	公衆衛生の専門家によると、2008年3月1日から現在までにボツワナBotswana地域で6名がマラリアで死亡し、それ以外に確定症例201名が治療中である。同地域では通常数例の報告しかなく、異常に高い症例数である。

131	マラリア	第82回 日本感染症学会総会 2008年4月17-18日 431	平成18年5-9月にパプアニューギニア、インドネシア、タイに滞在していた29歳女性が帰国2ヶ月後に39°Cの発熱と著明な血小板減少を呈し、血液塗抹標本鏡検で三日熱マラリア原虫と四日熱マラリア原虫が認められ、治療された。後日、血液塗抹標本から抽出したDNAをPCR検査したところ、三日熱マラリアとサルマラリアの重複感染と診断された。サルマラリア感染は国内では検索した範囲では報告がない。
132	リケッチア症	Emerg Infect Dis 2008; 14: 1019-1023	ネコノミが媒介するRickettsia felis感染症のヒト症例は世界中で報告されている。症状は発疹熱やデング熱などに類似しており、実際よりも少なく推定されている可能性が高い。ヒトの健康を脅かす感染症として今後調査が必要である。
133	リケッチア症	ProMED-mail20080728.2306	オランダ・ブラバント州の公衆衛生局が行った調査でQ熱の症例報告数が急激に増加し、2008年7月21日付けで491症例が報告されている。感染症管理センター長によると、実際の感染者数は報告された症例数の10倍であると思われる。2007年まではQ熱はオランダではほとんど存在しなかった。
134	リンパ性脈絡髄膜炎	boston.com 2008年5月13日	2008年5月12日の保健当局発表によると、ボストンの病院で検出が難しいウイルスに感染したドナーから腎臓を移植された70歳女性が死亡し、57歳男性が危篤である。ドナーと患者2名の検体をCDCが検査したところ、全員、リンパ球性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)陽性であり、ドナーからの伝播であったことが確認された。移植前にはエイズウイルス、肝炎ウイルスなどの検査は行っていたが、LCMVの検査は行っていなかった。
135	リンパ性脈絡髄膜炎	ProMED-mail20080516.1635	米国ボストンで同一ドナーからの腎臓を移植後、70歳の女性が死亡し、57歳男性が重体となっていると保健当局は発表した。ドナーである49歳のホームレスの男性はリンパ性脈絡髄膜炎ウイルス(LCMV)に感染していた。LCMVはアレナウイルス属の基準種であり、げっ歯類により伝播されることが多いが、移植前検査には通常は含まれない。臓器に対する需要が大きいと、レシピエントはホームレスの臓器を入手することがよくある。
136	レプトスピラ症	PLoS Negl Trop Dis 2008; 2: e213	ペルー-Iquitos地域のラットから新規のレプトスピラを同定し、“Leptospira licerasiae” serovar Varillalと名づけた。同地域の急性レプトスピラ症患者の30%で“Leptospira licerasiae” serovar Varillalに対するMAT抗体が高力価で検出されたが、ペルーの他の地域では7%であった。この新規のレプトスピラ種はアマゾンの生物学的多様性を反映しており、ペルーアマゾンにおけるレプトスピラ症の重要な原因と考えられる。
137	レプトスピラ症	Infect Genet Evol 2008, doi:10.1016	コスタリカにおいて、レプトスピラ症の入院患者から分離されたレプトスピラは、Javanica血清群型に分類される新しい血清型で、Arenalと命名された。同じ地区の重症患者から分離された株も同じ血清型であったことから、この株は、この地域に流行する新規の高病原性の血清型であると考えられた。
138	レンサ球菌感染	Clin Infect Dis 2008; 46: 659-667	ベトナムで成人の細菌性髄膜炎疑い患者450名について前向き研究を行った。S. suisは最も普遍的な病因で、151名(33.6%)の患者で検出され、この内50名がブタまたは豚肉に曝露していた。死亡率は151名中4名(2.6%)と低かったが、140名中93名(66.4%)で難聴が起こり、50歳より高齢者で重篤であった。また、92のS. suis株の内、91株がセロタイプ2であった。
139	レンサ球菌感染	Emerg Infect Dis 2008; 14: 155-157	2001年にS. suisセロタイプ16に感染し、死亡したベトナム人男性の症例報告である。患者はベトナム南部Long An Province出身の57歳男性でアルコール依存歴があった。入院時には嗜眠状態であったが、バイタルサインは安定していた。24時間後に急性呼吸促進症候群を呈し、死亡した。患者はブタを飼育しており、ブタの臓器を日常的に摂食していた。血液培養でS. suisが検出され、セロタイプ16であった。セロタイプ16がヒトから分離されたのは初めてのことである。
140	レンサ球菌感染	Emerg Infect Dis 2008; 14: 183-185	サンフランシスコ出身の60歳男性は、7ヶ月間のフィリピン滞在から戻った直後、2003年6月、発熱、発汗、頭痛、嘔気、食欲不振を発症した。男性は5日後に38.9°Cの発熱、項部強直、全身倦怠を呈し入院した。入院2日目に血液培養でグラム陽性連鎖球菌が検出され、分離菌はペニシリン感受性であった。入院5日目に左側難聴となり、7日目にStreptococcus suis血清型2型と同定された。患者はフィリピン滞在中に生の豚肉を摂食してS. suis髄膜炎を発病したと思われる。

141	レンサ球菌感染	J Infect 2006; 52: 455-460	2000年5月～2002年12月にタイChiang Mai大学病院で成人におけるStreptococcus suis(S. suis)感染に関する後ろ向き研究を行った。41名の感染患者が同定され、内3名にブタまたはブタ肉への曝露歴、1名に生牛肉摂取歴があった。臨床症状は感染性心内膜炎、髄膜炎などで、死亡率は19.5%であった。分離菌は全てペニシリンに感受性があった。S. suis 感染はタイ北部では稀ではない。早期発見が重要である。
142	レンサ球菌感染	第56回日本感染症学会東日本地方会総会、第54回日本化学療法学会東日本支部総会合同学会 2007年10月26-27日	酪農業を営む50歳男性が、2007年4月初旬より、全身倦怠感、39度台の発熱、悪寒が出現し、腰背部痛が出現し徐々に激しくなったため4月10日に受診した。5月18日に入院し、血液培養から連鎖球菌が検出され、肺塞栓、脊椎炎を合併した感染性心内膜炎と診断された。ペニシリンとゲンタマイシン併用投与により軽快した。同菌はStreptococcus suis 2と同定され、牛の飼育から感染したと思われる。
143	感染	56th Annual Meeting of the American Society of Tropical Medicine and Hygiene 1044	ヒト顆粒球アナプラズマ症(HGA)の発生率は、1999年以来2倍となった。原因病原体のAnaplasma phagocytophilumによる血液の安全リスクを調査するため、間接免疫蛍光法を用いてコネチカット州及びマサチューセッツ州の血液ドナーのA. phagocytophilumに対するヒトIgG抗体を測定した。その結果、2001年から2006年に採取された15,828ドナー血清中432例(2.7%)が抗体陽性であった。比較的高い陽性率が持続していることから更なる調査が必要である。
144	感染	Doctor's Guide 2007年11月12日	ヒツジの分娩時に農夫が罹患する謎の皮膚疾患が英国Hampshireの農夫およびSouthamptonの医師チームによって発見され、British Journal of Dermatologyに発表される。この疾患は耳だけに熱感、痒み、水ぶくれなどが起こり、毎年ヒツジの分娩時期に発症し、lambing earsと名づけられた。生検の結果、多形性光発疹と類似していることが明らかとなった。農作業と関連する事が示唆された。
145	感染	HPA/Health Protection Report 2(13) 2008年3月28日	2007年にNBSはイングランドのPrimary and Acute Care Trustsからの170000例以上の出産前検体を検査した。計819検体が感染マーカー陽性であった。429例(0.28%)がHBsAg陽性、165例(0.11%)が抗HIV陽性、225例(0.13%)が抗Treponema pallidum陽性であった。また1798例(2.5%)が風疹に対する抗体が陰性であった。
146	感染	ProMED-mail20071124.3799	中国HankouのJiayuanの保育園の同じクラスの生徒約20例が原因不明の疾患を発症した。2007年11月19日から発症し、口腔内潰瘍、発疹および微熱の症状を呈した。
147	感染	Transfusion 2007; 47: 2180-2184	カナダ血液サービスとHema-Quebecが主催した血漿分画製剤における病原体不活化(PI)に関するコンセンサス会議で得られた結論の考察と主な見解が報告されている。現在ヨーロッパで広く用いられているPIがカナダや米国で実現されようとしている。PIを推進することによって、現在の技術や供血者スクリーニング法では防ぐことができない輸血伝播感染症を減らすことができる。
148	感染	Transfusion 2008; 48: 304-313	血小板濃厚液におけるUVC照射の病原体不活化能を検討した。UVC照射は、血小板の品質に影響を及ぼさずに、細菌(表皮ブドウ球菌、黄色ブドウ球菌および大腸菌)ならびに伝播性胃腸炎ウイルスなど広範なウイルス(HIVおよびシミアンウイルス40を除く)を不活化することができた。しかし、HIVのような血液感染性ウイルスに対応するには、UVC法をさらに最適化することが必要である。
149	感染	Transfusion 2008; 48: 697-705	欧州の3つの血液センターにおけるアモトサレンおよびUVAによるフォトケミカル処理(PCT)過程のプロセスバリデーション試験を行った。フィブリノーゲンおよび第VIII因子はPCTにより平均26%減少したが、治療用血漿として十分なレベルを保持していた。他の凝固因子は対照FFPのレベルの81-97%であった。PCT処理済FFP中の凝固因子が治療用血漿に関する欧州規制および国内基準の範囲内に保持されることが示された。
150	感染	Vox Sanguinis 2008; 94: 315-323	アモトサレンと紫外線A波で光化学処理した血小板(PCT-PLT)の輸血に関連する有害事象を調べるために能動的血液安全監視プログラムを実施した。患者1400名に7437件のPCT-PLTが輸血され、その内、68件が有害事象と関連付けられた。PCT-PLT輸血に関連した急性輸血反応は発現頻度が低く、ほとんどが軽度であった。

151	感染	Vox Sanguinis 2008; 95(Suppl. 1), 2A-S01-02	化学的または光化学的遺伝子修飾に基づいた血液製剤中の病原体不活化(PI)は広範囲のスペクトルの予防的アプローチである。溶媒界面活性剤(SD)およびメチレンブルー法は欧州の多くの国で使われている。アモトサレン(Intercept)、リボフラビンをを用いた新しい方法が導入されている。リボフラビン、UVおよび可視光線を用いる血小板(PC)、血漿および赤血球のためのPI法が開発中である。
152	ウイルス感染	AIDS Res Hum Retroviruses 2007; 23: 1330-1337	Simian Foamy Virus (SFV)感染した男性7名を長期間追跡調査した。男性は非ヒト霊長類と接触する職業であった。男性の全ての末梢血単核球(PBMC)からプロウイルスDNAが検出され、口腔や尿生殖検体から検出されることもあった。長期間(中央値20年)の性的曝露にかかわらず妻たちは陰性であった。特異的な臨床症状は報告されなかった。限定的な追跡調査であるためSFV関連疾患やヒト-ヒト感染を特定できなかった。
153	ウイルス感染	CDC/Travelers Health 2008年6月13日	2008年1月8日、ブラジル保健局はブラジル在住の旅行者および外交官に黄熱病警報を発した。2008年6月11日現在、死亡25名を含む、45名の黄熱病確定症例が報告された。黄熱病危険地域への旅行者は10日前にワクチン接種を受けるよう警告している。また、更に2つの州が危険地域に指定された。
154	ウイルス感染	Emerg Infect Dis 2008; 14: 834-836	カナダにおいて、Saffoldウイルスに関連するカルジオウイルス分離株が呼吸器症状を有する3名の子供からの鼻咽頭吸引物から検出された。Can112051-06分離株のポリプロテイン配列は、Saffoldウイルスと91.2%のアミノ酸同一性を有した。しかし、ウイルス表面のEF及びGDのループは、かなり異なっていた。
155	ウイルス感染	J Virol 2007; 81: 12709-12714	末梢血幹細胞移植後に肺炎で死亡した患者由来の検体から未知のウイルスが分離された。無作為PCRに基づいたスクリーニング法により、この感染物質はトリパラミクソウイルス1(APMV-1)と同定された。肺組織中の脱落肺細胞にAPMV-1抗原が存在することが免疫組織化学的分析により確認された。遺伝子配列から病原性ハトAPMV-1株と最も近縁であることが示された。APMV-1感染によるヒト致死症例の初めての報告である。
156	ウイルス感染	Liver Transpl 2007; 13: 1703-1709	サイトメガロウイルス(CMV)ドナー陽性/レシピエント陰性(D+/R-)肝移植における抗ウイルス薬(ガンシクロビルまたはバルガンシクロビル)予防投与の効果調べた。予防投与中にはCMV病は発症しなかったが、予防投与中止1、3、6、12および24ヶ月後に各々2%、25%、27%、27%および29%の患者で初発CMV病が観察された。女性および若年患者で遅発性初発CMV病のリスクが増加し、糖尿病患者ではリスクが有意に低下した。
157	ウイルス感染	PLoS Pathogens 2008; 4: e1000047	出血熱症例の小さな流行が、2003年12月と2004年1月にボリビアのCochabamba付近で発生した。1死亡例から検体を入手し、患者血清検体から非細胞障害性ウイルスを単離し、アレナウイルスと同定した。RT-PCR分析、並びにS及びL RNAセグメント配列の解析の結果、このウイルスはサビアウイルスに最も近縁であるが、新規のウイルスであることが示された。我々はこのウイルスをChapareウイルスと命名することを提案する。
158	ウイルス感染	ProMED-mail20080218.0645	2008年1月21日、Braziliaで32歳の男性が黄熱のため死亡した。これは、ブラジルにおける15人目の黄熱死亡患者である。Mato Grossoでも1名の感染と死亡が確認された。パラグアイ保健当局は首都Asuncionの病院で集中治療を受けていた39歳の女性が2008年2月16日に死亡したと発表した。同国ではこれまでに、少なくとも6名が黄熱によって死亡した。多くの市民がワクチン投与を求めて病院に殺到している。
159	ウイルス感染	ProMED-mail20080418.1387	ボリビア保健当局、CDCなどのチームにより、ボリビア農村部で感染により死亡した患者1例の血清検体から、未知のアレナウイルスが同定され、Chapareウイルスと名づけられた。この研究は4月18日付けPLoS Pathogensに発表された。ChapareウイルスはJunin、MachupoおよびGuanaritoウイルスと同様の出血症状を起こすが、遺伝学的には異なる。
160	ウイルス感染	ProMED-mail20080720.2201	オーストラリアBrisbaneの動物病院のスタッフが致死性のヘンドラウイルスに感染した。看護師1名と獣医1名が、感染したウマ数頭を治療後、感染した。前回のアウトブレイクは1994年で調教師1名とウマ14頭が死亡した。同ウイルスがヒト-ヒト感染するとのエビデンスはなく、拡大する危険性はない。

161	ウイルス感染	Transfusion 2008; 48: 1180-1187	米国テキサス南東部の健康な成人ドナー100名の血液中のヒトヘルペスウイルス(HHV)陽性率とウイルスDNA量をRT-PCRにより調べた。その結果、HSV-1、HSV-2、VZV及びHHV-8 DNAはどの検体からも検出されなかった。一方、EBVは72%、HHV-7は65%、HHV-6は30%、CMVは1%に検出された。また、1名の血液から 6.1×10^7 geq/mlを超えるHHV-6 Type Bが検出されたが、健康者における異常な高値は活動性感染や免疫不全とは関連が無いと思われる。
162	ウイルス感染	WHO Representative Office in China 2008 年5月19日	2008年3月下旬、中国Anhui省Fuyang市で未就学児3名が重症の肺炎と急激な悪化により死亡し、4月中旬までに15名の小児が同様の疾患で死亡した。調査の結果、エンテロウイルス71による手足口病と確定された。同市では、3月1日から5月9日の間に、6,049例報告され、353例が重篤で、22例が死亡した(致死率0.4%)。患者数は、4月の初めに増加し始めて、4月28日にピークに達し、5月5日以後減少した。
163	ウイルス感染	共同通信 2008年2月7日	オーストラリアで臓器移植を受けた後に相次いで死亡した3人の患者から、未知のウイルスを新しい手法で発見したと、米コロンビア大などのチームが6日、米医学誌に発表した。チームは生物のゲノムを解読するための高性能配列解読機を駆使し、患者の遺伝子から未知の配列の遺伝子断片をふるい分け、これまで知られていないアレナウイルスの一種を発見した。
164	ウイルス性脳炎	ProMED-mail20080724.2241	米国フロリダ州のウマにおいて致死性の高い東部ウマ脳炎(EEE)ウイルス感染が発生している。2007年、2006年の例数は各々、18例、17例であったが、2008年7月初旬までのウマのEEE確定症例数は56例となった。ヒトでの感染は起こっていない。
165	狂犬病	ProMED-mail20071115.3708	2007年11月12日、インドAnnaparaの100名近くの住民に対し、狂犬病のワクチンが接種された。子牛が狂犬病のイヌに咬まれたため、住民は、子牛の唾液からその母牛に狂犬病が感染した恐れがあると疑い、その牛乳を飲んで狂犬病に感染した可能性があるとの集団ヒステリーを起こしたためである。母牛への感染は確認されていない。また牛乳を介して狂犬病が感染することは極めて低いと考えられる。
166	狂犬病	ProMED-mail20080401.1199	乳牛2頭が狂犬病陽性であったのを受け、米国West Virginia州Hampshireのウシの群れが隔離された。狂犬病の兆候は示していないが、6名のヒトが予防措置的に狂犬病の治療を受けている。
167	結核	Bull World Health Organ 2007; 85: 586-592	2004年10月-2005年9月にタイ結核能動的サーベイランスネットワークで収集された結核症例は5841例(164/100000)で、うち新規症例は2310例(65/100000)であった。これは2003年の受動的サーベイランスに比べ総症例数で19%、新規症例数で13%増加した。タイにおけるWHOの新しい戦略は私的施設における症例発見を増加させ、結核患者に対するHIVサービスおよび多剤耐性結核の診断を改善した。
168	結核	CDC/MMWR 2008; 57(13): 333-336	米国オクラホマ州保健局は2007年に46歳のホームレス男性臓器ドナーの死亡から3週後に結核菌を検出した。このドナーの肝臓または腎臓はテキサス州の住民であるレシピエント3名に移植され、そのうち2名が播種性結核を発症し、1名は死亡した。ドナーおよびレシピエントの結核分離株の遺伝子型は同一で、臓器移植により伝播したと考えられた。移植伝播性結核が疑われた場合には医療関係者は関連するOPO、組織バンクおよび保健当局に連絡するべきである。
169	結核	Curr HIV Res 2007; 5: 499-504	2000-2005年にインドNew Delhiで治療を受けたHIV垂直感染小児213名をスクリーニングし、培養で結核と確定した24名について調べた。結核と診断された年齢(中央値)は16ヶ月で、半分以上の小児が免疫不全であった。21名(87%)が肺結核で、肺以外の結核が10名(41%)で確定された。6ヶ月間の抗結核薬治療後の回復率は64%であった。3名が薬物抵抗性で、5名が死亡した。
170	結核	ProMED-mail20071111.3664	Canadian Food Inspection AgencyはBritish Columbiaの飼育場でウシ結核が発見されたとのPrince George Citizenの報告を受けて、AlbertaおよびBritish Columbia における約30件の飼育場の検査を行った。

171	結核	ProMED-mail20071202.3884	Vanderhoofの農場にいた雄ウシにおいてウシ結核が発見された後(2007年8月に確認された)、カナダBritish ColumbiaおよびAlbertaの30を超える農場が検疫中である。今までのところ、当該牛に直接接触した221頭のウシが処分された。
172	結核	ProMED-mail20080123.0285	米国Minnesota Board of Animal Healthは本日(2008年1月22日)、Roseau郡の食用ウシの群れがウシ結核検査に対して陽性であったと発表した。新しく検出されたRoseauの群れは2005年と2006年の検査では陰性であったが、2007年11月の検査で1頭がウシ結核の疑いとなり、先週ウシ結核と確定された。
173	結核	ProMED-mail20080202.0429	米国California州Fresno郡においてウシの群れがウシ結核に罹患していると2008年2月1日にCalifornia農業当局が述べた。ウシ5頭が検査陽性であった。前回、Californiaでウシ結核が検出されたのは2003年である。
174	結核	ProMED-mail20080205.0472	Minnesota動物保健局は本日(2008年2月4日)、Roseauのcattle operationからのウシにおけるウシ結核検査陽性を発表した。Minnesotaにおいてウシ結核が検出されたウシの群れは10件となった。
175	細菌感染	American Society for Microbiology 108th General Meeting 2008 年6月1-5日	マサチューセッツの医療センターで品質管理のため使用された廃棄製剤、使用期限切れロット、アフレーシスの残りの人血清アルブミン製剤を入手し、クラミジアの有無を調べた。その結果、PCR及びウエスタンブロットにより、4社の20製剤全てにおいてクラミジアの存在が確認された。また、in vitro培養を行ったところ11検体(55%)でクラミジア生菌が生育した。
176	細菌感染	IASR 2008; 29: 194-195	肺炎患者の喀痰と患者が入浴した温泉水からLegionella rubrilucensを分離した。患者喀痰と温泉水から分離されたL. rubrilucensについてPFGEによるDNA切断パターンを調べたところ、同一パターンであった。レジオネラ症患者からの菌分離はL. pneumophilaが主であり、当該菌のヒトからの分離例は国内外で初めてである。
177	細菌感染	J Hosp Infect 2008; 69: 398-401	台湾の病院で2007年1月から発生したBurkholderia cepaciaの院内感染について原因を調査した。この病院では開封したマルチドースヘパリンバイアルを4℃の冷蔵庫で保管し、空になるまで繰り返し使用していた。毎日調整される希釈ヘパリン溶液から同菌が検出され、感染源であることが明らかとなった。不適当な薬剤の使用方法は避けるべきである。
178	細菌感染	ProMED-mail20071231.4200	2007年12月29日に中国KaohsiungのLiang Jen病院からHualienのYuli sanatoriumへ移された患者9例の血液に高濃度のEntamoeba histolytica抗体が確認され、検査でこの9例のうち3例において感染が示された。Liang Jen病院の消毒および患者の検査が実施され、14例がアメーバ赤痢感染が疑われている。
179	細菌感染	ProMED-mail20080409.1305	香港保健センターは2008年で1例目のコレラ症例を確定した。Wong Tai Sin地区の26歳の女性である。2008年3月29日から4月2日フィリピンへ旅行し、下痢、腹痛、眩暈および嘔吐の症状を呈した。患者はコレラ菌Ogawa型陽性であった。
180	細菌感染	Transboundary and Emerging Diseases 2008; 55: 183-185	米国Kentucky大学家畜疾患診断センターで、9ヶ月齢で流産したサラブレッドの胎仔とその胎盤の剖検および組織学的検査を行った。その結果、胎盤炎、臍帯炎および胎児の致死的な気管支肺炎が確認された。原因となった病原体としてDermatophilus congolensisが特定された。本報告は全ての動物において初めて胎児流産とDermatophilus congolensis感染の関連を示したものである。

181	細菌感染	Vox Sanguinis 2008; 94: 193-201	ルックバック調査でPropionibacterium acnes汚染が推定される血小板濃縮製剤(PC)の保存から輸血までを追跡したところ、輸血後の有害事象は見られなかった。In vitro試験でプロピオン酸菌属の臨床分離菌をPCに接種し、好氣的に22℃で10日間保存という条件下での生育を調べたところ、細菌の生育は緩慢か生育を認めなかった。プロピオン酸菌属はPC保存条件下では増殖しないため、検出されないか、輸血後に検出されると考えられた。
182	細菌感染	第82回 日本感染症学会総会 099 2008年4月17-18日	平成17-19年度に国内医療機関より検査依頼のあったヒト刺咬マダニについて病原体検索を行った。その結果、52症例54個体中3例で寄生マダニよりボレリアDNAが検出された。Borrelia valaisiana近縁種による世界で初めてのライム病症例を見出した。また、新しいボレリア感染症 Southern tick-associated rash illnessが国内のキチマダニによって媒介される可能性を初めて示した。
183	細菌感染	第56回 日本輸血・細胞治療学会総会 2008年4月25-27日 WS-3-3	血小板濃厚液の輸血後に、TRALI様の急性呼吸不全と髄膜炎を併発し、血小板残液からBacillus cereusが検出された症例の報告である。TRALI様の急性呼吸不全を呈した際は、輸血後感染症も視野に入れた対応が必要である。髄膜炎併発例の報告はこれまでに無いが、輸血後感染症治療では髄液移行性も考慮した抗生剤選択が求められる。培養検査だけでなく、遺伝子検査まで施行することが、診断及び同一菌株の証明に重要である。
184	細菌感染	第82回 日本感染症学会総会 2008年4月17-18日 099	平成17-19年度に国内医療機関より検査依頼のあったヒト刺咬マダニについて病原体検索を行った。その結果、52症例54個体中3例で寄生マダニよりボレリアDNAが検出された。Borrelia valaisiana近縁種による世界で初めてのライム病症例を見出した。また、新しいボレリア感染症 Southern tick-associated rash illnessが国内のキチマダニによって媒介される可能性を初めて示した。
185	原虫感染	Emerg Infect Dis 2008; 14: 1013-1018	リーシュマニア症は生物媒介性疾患で、南ヨーロッパに定着しており、毎年700例近く、トルコを含めると3950例のヒトでの感染が報告されている。無症候症例は臨床症例の30~100倍とみられ、また飼いの犬の血清陽性率は25%と推定される。薬剤耐性Leishmania infantumがイヌを介して拡大するおそれもある。全ヨーロッパレベルでの研究が必要である。
186	旋毛虫症	Am J Trop Med Hyg 2008; 78: 40-44	ラオス北部のUdomxay地区病院における2005年6月から2006年5月の旋毛虫疑い症例138名について調査した。その結果、結婚式または葬式に出席した人の比率が高く、生または発酵ブタ肉料理を食べていたことが明らかとなった。ELISA分析の結果、これらの症例のTrichinella陽性率は67.6%(138名中90名)であった。同地区の屠殺場のブタ肉1検体からTrichinellaが検出され、T. spiralisと同定された。
187	クラミジア感染	Sex Transm Dis 2008; 35: 377-382	ウィーンで2005年11月から2006年11月に鼠径リンパ肉芽腫を有し、Chlamydia trachomatis DNA陽性の男性同性愛の患者24名から得られた検体について遺伝子的な解析を行った。24検体中15例のC. trachomatisがbiovar L2、7例がbiovar D、FまたはGであった。8検体においてompAの可変領域にL2bの変異型が認められた。また4検体においてL2配列の3箇所に変異が見られ、新規株として各々L2c、L2d、L2eと命名された。
188	炭疽	ABQ Tribune 2007年11月19日	炭疽陽性の実験用ウサギが飼育されていたNew Mexico大学の部屋では炭疽は検出されなかったと、州保健局は今朝、報告した。ウサギに接触した従業員2名に抗生物質が投与された。研究所の職員約20名にも予防のため投与する予定である。
189	炭疽	ProMED-mail20071227.4149	トーゴの農業畜産水産省は、同国北部で炭疽が発生し、6人が死亡したと発表した。2007年12月初めに北部の草原で家畜に炭疽が発生し、病気のウシの肉を食べて感染した。他の感染者は病院で治療中である。トーゴ政府は発生地域に医療チームを派遣し、ウシの予防接種等の対策を打ち出した。住民に、死亡のまたは病気のウシを食べないように警告している。
190	炭疽	ProMED-mail20071229.4168	オーストラリア1次産業局はUpper Hunterで炭疽により死亡したウシは12頭で、20頭近くが死亡したと考えられると述べた。疾病は5農場に拡大している。

191	炭疽	ProMED-mail20071231.4193	オーストラリアNew South WalesのUpper Hunter Valleyにおける炭疽のアウトブレイクにより、ウシ30頭以上およびウマ1頭が死亡した。状況は悪化しつつあり、2007年12月29-30日には更に3頭の死亡が報告されている。アウトブレイクは9農場に拡大している。
192	炭疽	ProMED-mail20080102.0015	オーストラリアNew South WalesのUpper Hunter で更にウシ3頭が死亡したが、これは既に隔離されている農場で発生した。現在、炭疽によりウシ35頭が死亡している。
193	炭疽	ProMED-mail20080103.0032	オーストラリアNew South WalesのUpper Hunter では検査陽性のウシが更に確認され、計9農場が隔離されている。2008年1月2日の当局発表によると、炭疽により36頭が死亡している。
194	炭疽	ProMED-mail20080105.0061	2007年12月中に、オーストラリアNew South WalesのUpper Hunter Valley貯水池内のScone地区9農場で炭疽が確認された。隔離措置、死体焼却およびワクチン接種が実施された。同地区では症例発見のためのサーベイランスが強化されている。
195	炭疽	ProMED-mail20080116.0205	オーストラリアNew South WalesのRouchel地区では、炭疽による死亡のピークは2007年のクリスマス時期であったが、現在は徐々に減少している。最後の死亡例は2008年1月2日に確認された。炭疽により計50頭が死亡し、11農場が隔離されている。
196	炭疽	ProMED-mail20080122.0265	オーストラリアVictoriaのGoulburn Valleyの農場で雄牛1頭が炭疽のため死亡した。該当牛は2007年2月に炭疽のアウトブレイクが起こった農場出身であった。農場は隔離され、付近の農場のウシはワクチン接種された。
197	炭疽	ProMED-mail20080204.0457	2008年2月3日インド当局は、Orissa州Karaput地方で最近10日間の間、炭疽感染疑いにより4名が死亡したと発表した。全員腐った肉を食べた後に死亡し、死後、炭疽後合併症を示した。予防措置として村内および周辺の全ての家畜にワクチン接種が行われた。
198	炭疽	ProMED-mail20080415.1360	ガーナGaru-Tempane地区およびその近郊、特にBiembogで炭疽が流行し、小児1名を含む3名が感染動物の死骸を摂食後に死亡した。同地域の全地区で炭疽に対する大規模なワクチン接種をするために獣医チームが派遣された。
199	炭疽	ProMED-mail20080423.1431	米国Minnesota州のBecker郡の農場でウシ2頭が炭疽で死亡した。同州における2008年で初めての炭疽事例である。
200	炭疽	ProMED-mail20080603.1775	2008年6月2日、インドOrissaでヒト2名と何十頭ものウシが炭疽により死亡し、20名以上のヒトが感染したと当局が発表した。2008年5月1日、Kandhasahiでウシ、ヤギなど動物6頭が炭疽により死亡し、その肉を摂食した村人16名が炭疽に感染し、うち1名が死亡した。2008年5月26日、Mantriputで12頭以上のウシが炭疽により死亡し、5名が炭疽に感染し、うち1名が死亡した。

201	炭疽	ProMED-mail20080608.1826	2008年6月4日、インドOrissaのSundargarh地区Kurtaの地域保健センターで炭疽症状の治療を受けていた35歳男性が死亡した。治療中の患者11名中4名が容態悪化のため病院へ搬送された。これらの患者は5月25日の地域の祭りで牛肉を食べた後、発症した。
202	炭疽	Seachange Bulletin 2007年12月2日	New Mexico大学で研究に使用されていた実験用ウサギがどのようにして野生株の炭疽に曝露したかを疫学者と科学者のチームが調査中である。大学によると、ウサギから検出された炭疽はNew Mexicoの土壌中に自然に発生するもので、公衆衛生上の脅威ではないとのことである。検出された炭疽は動物からヒトに感染しうするため、ウサギの剖検を行った従業員2名および研究所の職員約20名に予防のため抗生物質が投与された。
203	梅毒	SignOnSanDiego.com 2008年3月26日	カリフォルニア州サンディエゴ郡の年間梅毒症例数は、最低となった2000年の28例から昨年(2007年)は340例まで急増した。州の他の大都市の郡と比べて非常に急激な増加である。増加率は州全体の2倍以上、全国の3倍以上になる。州から派遣された5名の専門家チームは、梅毒と診断された人々と連絡をとって、性的パートナーを探し、検査を受けるよう勧めている。
204	野兔病	Eurosurveillance 2007; 12(45): Article 1	スペイン北部のCastilla y Leon地方で2007年6月末に野兔病のアウトブレイクあった事が疫学的に確認された。10月22日には362症例が野兔病と確定された。患者は全員、抗生物質投与により回復した。患者のうち、23.5%がげっ歯類との接触があった事、16.6%が節足動物に刺された事、17.4%がイヌまたはネコのような動物に咬まれたこと、17.1%がザリガニを取り扱った事、4.4%が野兔と接触/皮剥ぎがあったことなどが判明した。
205	野兔病	JAPIC Daily Mail No.1668 2008年3月13日	福島県の50代男性が野兔病に感染。この男性は2008年1月中旬に、野ウサギを狩猟し、皮を剥ぐなどの作業をした。2月には千葉県県の男性の感染が、国内で9年ぶりに判明した。
206	野兔病	第62回日本細菌学会東北支部総会 2008年8月21-22日	2008年5月に青森県の農場で衰弱死したトウホクノウサギを病理解剖したところ、脾臓・リンパ節の腫脹が顕著であったため、脾臓からの細菌分離を行い、同定を試みた。純培養菌の生化学的性状試験およびPCR法による特異遺伝子の検出より、野兔病菌(<i>Francisella tularensis</i> subsp. <i>Holarctica</i>)と同定した。青森県では1990年以来初めての野兔病発生報告である。
207	野兔病	千葉県健康福祉部疾病対策課 感染症発生情報 平成20年3月4日	2008年1月30日、千葉県で74歳男性が野ウサギ食べようと調理したところ、2月7日頃から発熱した。2月29日に医療機関から野兔病の発症例として地元保健所に報告された。患者は既に回復している。また、野ウサギを提供した知人および患者家族の健康に異常はない。国立感染症研究所によると、野兔病は1994年までに1372例の患者が報告されていたが、その後減少し、1999年の千葉県での1例以降報告されていない。
208	アナフィラキシーショック	FDA 2008年3月21日	B. Braun Medical Inc.は、納入業者Scientific Protein Labs. LLC (SPL) からHeparin Sodium USPの医薬品原料(API)の米国全域での回収について報告を受けた。この自主回収はB. Braunが製造し米国全域およびカナダに販売した23の最終医薬品製品が対象である。B. Braunが入手したHeparin Sodium, USP APIの1ロットにおいてヘパリン様物質の混入が明らかにされた。
209	アナフィラキシーショック	Health Canada 2008年3月20日	カナダで販売されたheparin製品の検査で、B. Braun Medical Inc製造の製品において異物(過硫酸化コンドロイチン硫酸)が確認され、Health Canadaは同社と協力し、該当するカナダにおける製品の市場からの回収を行っている。米国およびオーストラリアのheparin製品でも過硫酸化コンドロイチン硫酸が確認されている。Health Canadaへの有害反応報告ではheparinに関連したアレルギー反応などの有害反応の増加は示されていない。
210	アナフィラキシーショック	Health Canada 2008年3月27日	B. Braun Medical Inc.の異物が混入したheparin製品の回収に関する最新情報。回収対象となっている製品およびロットなどが記載されている。米国において重度のアレルギー反応に関連した異物(過硫酸化コンドロイチン硫酸)が、カナダの一部のheparin製品で確認されたことに関して病院向けに通知した。

211	アナフィラキシーショック	LAKEMEDELSEVERKET 2008年4月29日	2008年4月23日、スウェーデンMPAは、スウェーデン市場においてOSCS混入が確認されたKlexaneパッチの回収を決定した。混入レベルは低く、回収は予防措置である。MPAは、米国におけるheparin製品に関する有害事象・回収などを受けて、スウェーデン市場向けにheparin製品を供給している全企業に対してOSCS混入について製品の検査を指令した。低分子量heparin製剤Klexaneの少数のパッチにおいて低レベルのOSCS混入が確認された。MPAは重度の有害事象の報告は受けていない。
212	アナフィラキシーショック	オーストラリア/TGA 2008年3月20日	2008年3月20日、豪TGAは、Heparin製品の使用に関するUrgent safety advisoryを発行した。最近、米FDAはheparin静脈内投与に関連したアナフィラキシー症例について報告を受けており、FDAによる検査により、これら有害反応に関連したheparinサンプルから汚染物質の存在が確認された。これらの報告を受けて、TGAはオーストラリア市場において入手可能な全銘柄のHeparinの検査を開始した。
213	アナフィラキシーショック	オーストラリア/TGA 2008年3月27日、4月7日	豪TGAは、オーストラリアで最近販売されたAstra Zeneca, Hospira, PfizerおよびBaxterのheparin sodium全製品の検査を完了した。Astra Zenecaのheparin溶液製品のみで汚染物質の混入が確認され、同社は該当パッチを回収した。低分子量heparin (LMH)の検査は実施中で、現在までにPfizer製造のLMHの検査が完了し、過硫酸化コンドロイチン硫酸が含まれていないことが判明し、Sanofi-Aventisの製品については現在検査中である。
214	アナフィラキシーショック	ドイツBfArM 2008年3月7日、4月15日、4月25日	ドイツBfArMは、2008年3月7日、重度のアレルギーマニエーションに関連して、Rotexmedica製のHeparin-Rotexmedicaの回収について通知した。2008年4月15日、全ての注射用heparinについて、FDAが推奨する分析法による検査を指示した。2008年4月25日、「全ての注射用heparinについて、FDAが推奨する分析法による検査を指示」が更新され、分画および未分画heparinに関する情報などが更新され、掲載されている。
215	神経系障害	CDC/MMWR 2008; 57(Early Release): 1-3	2007年10月29日、米国Minnesota南東部のブタ処理施設の従業員における原因不明の神経疾患についての報告があり、州保健局と米国CDCが調査中である。2008年1月28日現在、進行性炎症性神経障害症例は12例で、症状はブタ頭部処理に関わったヒトで発生した。原因は特定されていない。
216	神経系障害	International Herald Tribune/Americas 2008年2月1日	MinnesotaとIndianaのブタ処理施設従業員で報告された奇妙な病気は理解間近であり、CDCの調査官はこの疾病を進行性炎症性神経障害と名づけた。ミネソタ当局はQuality Pork Processors IncのAustin工場の何千人もの前従業員を調査中である。調査官は、空中に噴霧したブタの脳組織を吸い込んだことにより病気となったかを明らかにしようとしている。
217	神経系障害	Medscape/Medical News 2008年1月28日	2つのブタ処理施設の従業員に神経学的症状が報告されたのを受け、米国CDCは全ての神経科医に対して、同様の症例の報告を求める緊急速報を送付した。CDCが1月17日にアメリカ神経学会に送付した速報は、2006年11月から2007年11月にMinnesotaブタ処理施設の従業員12名が炎症性神経障害を発症した件について報告している。2008年1月中旬にはIndianaのブタ処理施設で同様の症例が報告された。
218	神経系障害	Minnesota Department of Health/ News Release 2007年12月3日	ミネソタ州保健局はオースティンのブタ処理施設Quality Pork Processors社の従業員における11名の神経疾患について調査中である。最初の症例は2006年12月に発症し、その後数ヶ月間にわたり、2007年7月まで発症した。先週、更に入院中の1名を確認した。筋力の低下や感覚異常を特徴とし、炎症性神経疾患と思われる。死亡例はない。11症例はブタ頭部や臓器の処理場で働いていた。原因は特定されていない。
219	神経系障害	ProMED-mail20080129.0366	2006年11月から2007年11月にMinnesotaの豚肉加工場作業員12名が炎症性神経疾患を発症し、2008年1月中旬にIndianaの豚肉加工場従業員も同様の症状を発症した。全員、ブタの頭から脳を吹き飛ばすために使用する強力な空気圧縮装置の近くに配置されていた。彼らは手足の疲労感、麻痺および疼きといった炎症性神経症状の顕著な特徴を示した。ブタの中枢神経系が感染媒体である可能性がある。
220	神経系障害	ProMED-mail20080201.0405	2006年11月から2007年11月にMinnesotaの豚肉加工場作業員12名が炎症性神経疾患を発症し、Indianaの豚肉加工場従業員2名も同様の症状を発症した。この疾患は進行性炎症性神経障害と名づけられた。ケースコントロール試験の結果、ブタの脳を高圧空気を用いて採取する工程と発症との関連性が強く示唆された。原因として、ブタの脳組織が自己免疫性末梢ニューロパチーを引き起こしたとの仮説があるが、詳細を調査中である。

221	神経系障害	Star Tribune 2008年3月6日	米国Nebraskaの精肉業者はMinnesotaとIndianaのブタ処理施設従業員を襲ったのと同じ神経学的症状であった。同州では初めての症例である。Nebraskaの精肉業者もブタの脳を高圧空気を用いて採取する工程のプラントで働いていたとNebraska保健局は報告した。本症例で合計14名の従業員が同疾患患者となった。
222	神経系障害	Washington post com 2008年2月4日	ミネソタ州Quality Pork Processors社の従業員12名に神経症状が発生している件で、調査を拡大して行ったところ、インディアナ州の工場の精肉業者らが手足の倦怠感、しびれ、疼痛などを訴えている事が判明した。圧縮空気システムによって除去され、空中に飛散したブタの脳組織を吸入することが、この新しい疾患の原因かもしれない。

